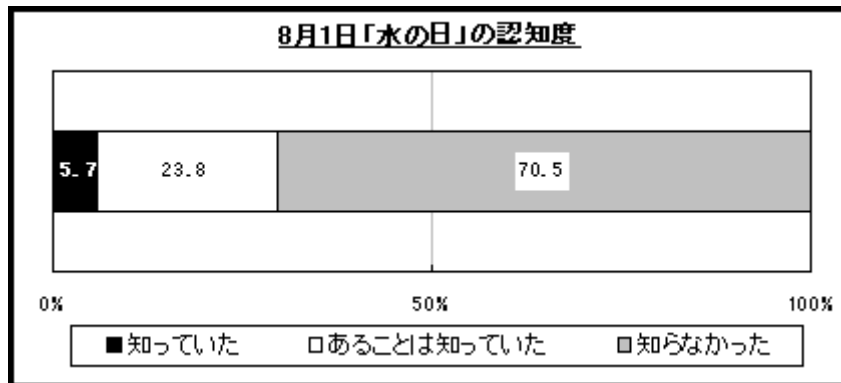


水にかかわる意識調査

Q. 8月1日が「水の日」ということを知っていましたか？

◇7割近くが水の日があることさえ『知らなかった』

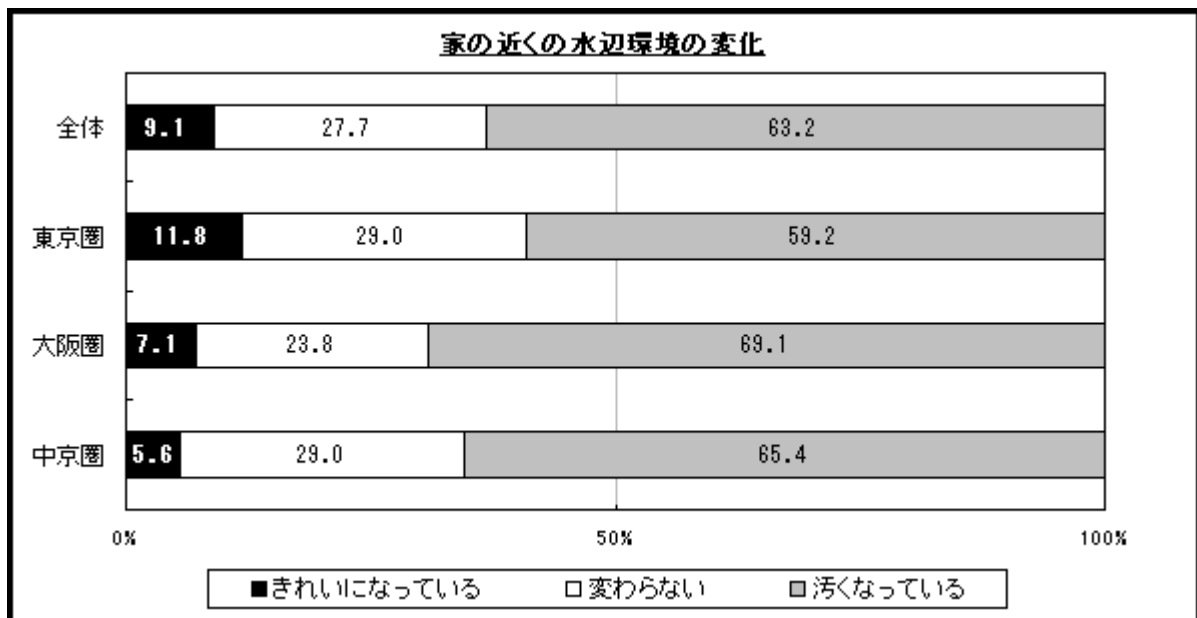
国土庁（現・国土交通省）が27年前（1977年）に制定した「水の日」。かけがえのない資源である水を大切にしようという趣旨ですが、『知っている』はわずか5.7%にとどまり、7割以上が水の日があることさえ『知らなかった』という結果でした。



Q. あなたの家の近くの水辺環境はどのように変化していますか？

◇全体では63.2%が『汚くなっている』と回答

家の近くの水辺環境の変化について聞いたところ、6割以上が『汚くなっている』と回答。『きれいになっている』は1割に達しませんでした。居住地別で見ると、大阪圏の『汚くなっている』が7割近くに達し（69.1%）、東京圏を10ポイント近く上回っています。

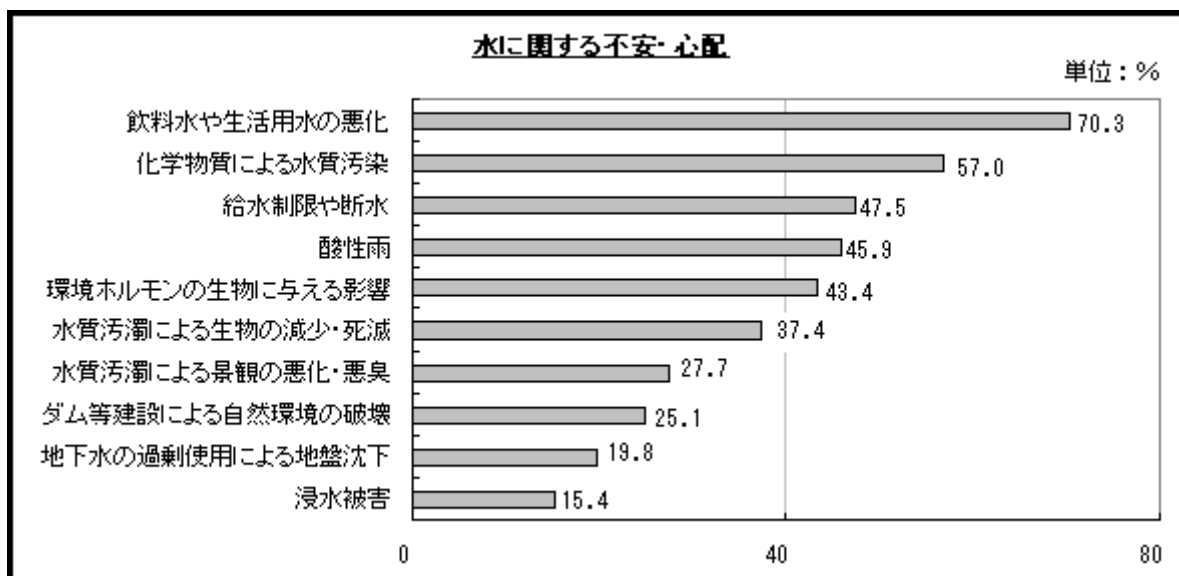


Q. 水に関して日頃不安や心配を感じていることは？（13 択+その他/複数回答）

◇もっとも不安なのは『飲料水や生活水の悪化』

水に関して日頃から不安を感じていることを聞きました。

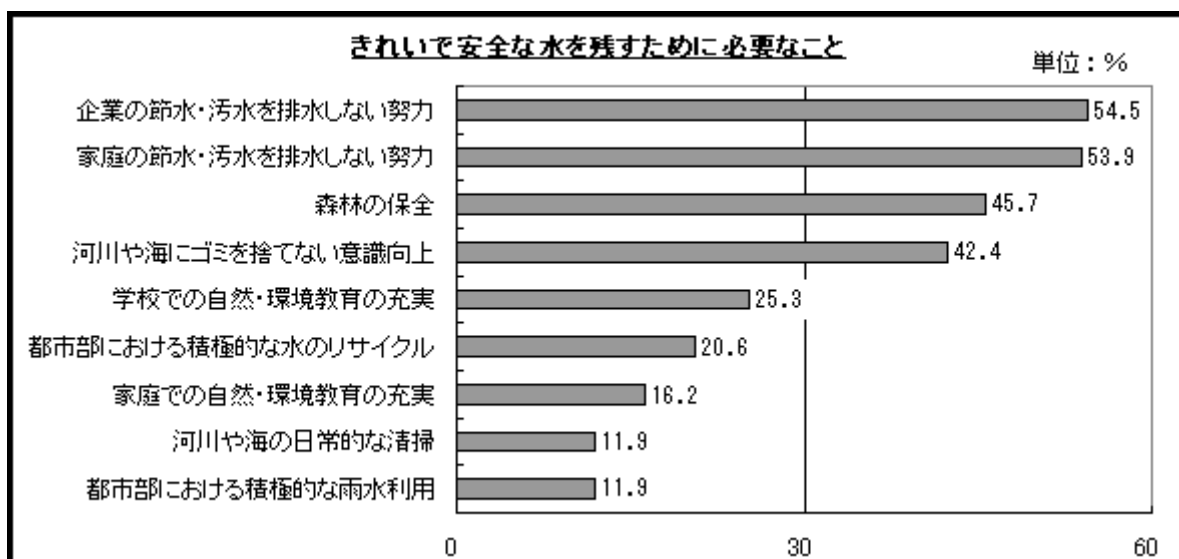
トップは 70.3%で『飲料水や生活水の悪化』。以下、『化学物質による水質汚染』（57.0%）、『給水制限や断水』（47.5%）、『酸性雨』（45.9%）、『環境ホルモンの生物に与える影響』（43.4%）などと続きました。



Q. きれいで安全な水を残すために必要なことは？（11 択+その他/複数回答）

◇『企業の節水・汚水を排水しない努力』がトップ

『企業の節水・汚水を排水しない努力』（54.5%）、『家庭の節水・汚水を排水しない努力』（53.9%）が小差で 1 位・2 位に並びました。水を大切に使い、汚れた水を捨てないことが何よりも重要という認識が広まっている結果といえるでしょう。



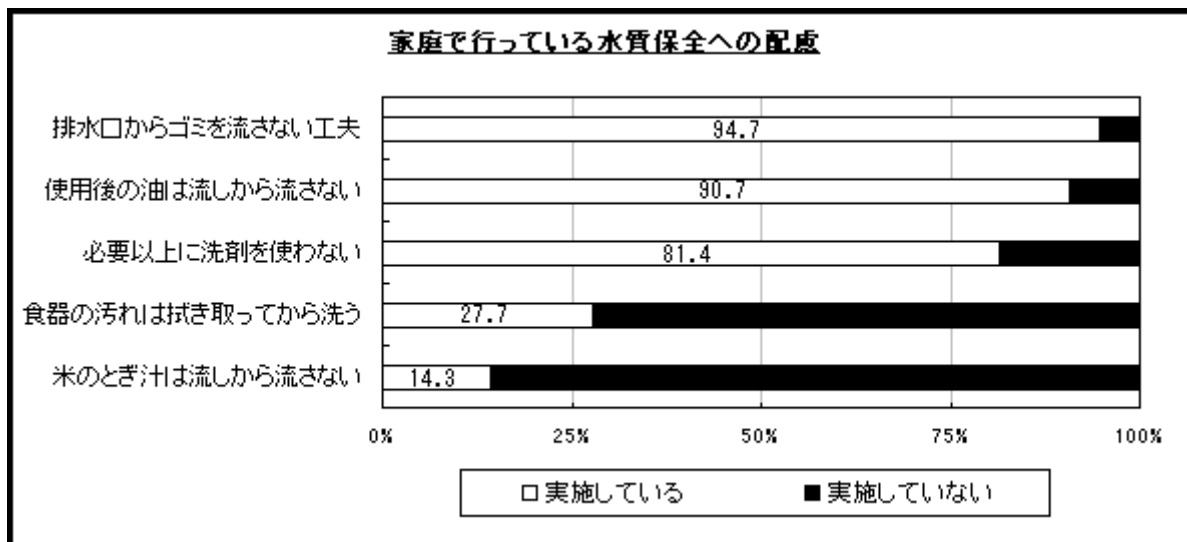
Q. あなたの家庭で行っている水質保全への配慮は？

◇「排水口からゴミを流さない工夫」「使用後の油は流しから流さない」は9割以上実施

家庭における水質保全への第一歩は、生活廃水を流さないように努力することです。

「排水口からゴミを流さない工夫」「使用後の油を流しから流さない」は9割以上の家庭で、「必要以上に洗剤を使わない」は8割以上の家庭で実施していました。

一方、洗剤や水の量を減らすことになる「食器の汚れは拭き取ってから洗う」は27.7%の実施率、川や湖の富栄養化対策になるといわれる「米のとぎ汁を流しから流さない」は14.3%と低い実施率でした。

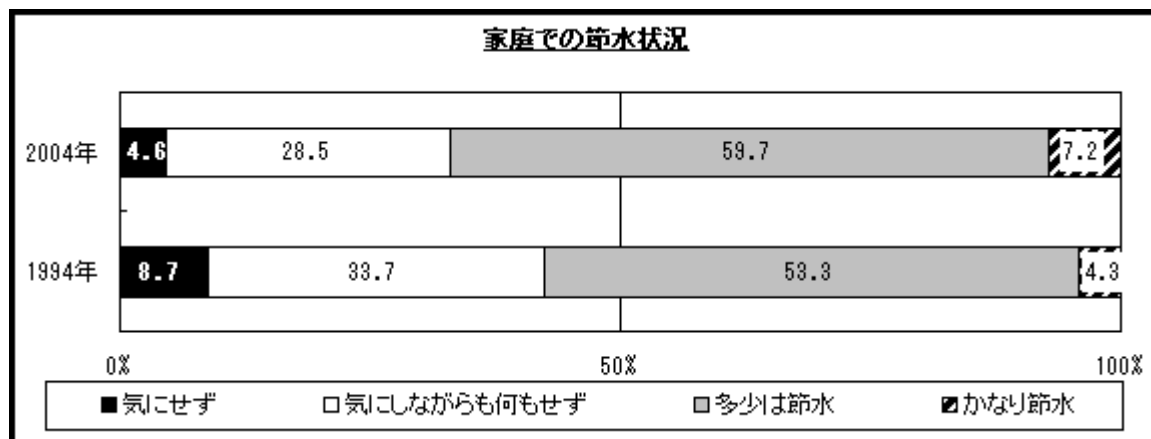


Q. あなたの家庭ではどの程度節水してますか？

◇10年間で節水意識は向上

◇3割以上の家庭がほとんど節水や水の使い回しを行っていない

家庭での節水や水の使いまわしについては、『気にせず水を使う』が4.6%、『気にしながらも何もしない』が28.5%で、3割以上の家庭が「ほとんど節水や水の再利用を行っていない」という結果になりました。10年前の第1回調査と比較すると、さすがに10ポイント近く減っていますが、さまざまな場面で水資源の大切さが叫ばれている昨今の状況を考えると、3割以上という数字は、まだまだ多いと言わざるを得ません。

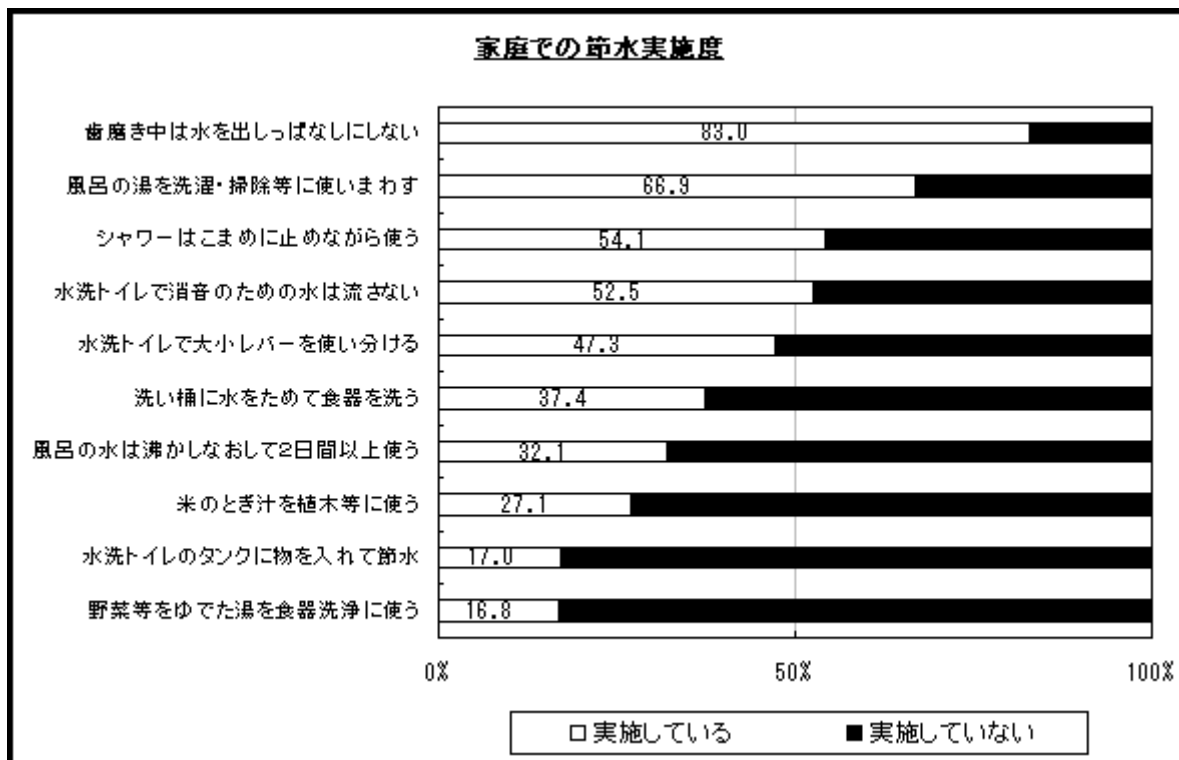


Q. あなたの家庭の節水方法は？

◇『歯磨き中の水は出っぱなしにしない』は8割以上の家庭で実施

節水に効果がある11項目について、家庭での実施状況を聞きました。

もっとも実施率が高かったのが『歯磨き中の水は出っぱなしにしない』で83.0%。『風呂のお湯を洗濯や掃除に使いまわす』(66.9%)、『シャワーはこまめに止めながら使う』(54.1%)も5割を超える実施率でした。比較的实施率が低かったのは『野菜をゆでた湯を食器洗浄等に使いまわす』(16.8%)、『水洗トイレのタンクに物を入れて節水する』(17.0%)などでした。



Q. 水にかかわることで知っていること、経験あることは？

◇半数に達してない『使っている水の水源を知っている』

◇男性の方が高い水にかかわる認知・経験率

私たちの生活に1日たりとも欠かせない水道の水。ところが『使っている水の水源地を知っている』は約半数の51.9%にとどまりました。『使った水の排水先を知っている』はさらに少なく27.7%でした。

男女別に見ると、総じて男性の方が認知・経験率が高く、『近くの川等の清掃を手伝ったことがある』は男性(23.7%)と女性(14.8%)で8.9ポイントの開きがありました。

水にかかわる認知・経験

単位：%

